

平成 29 年度 第 2 回第 2 次安曇野市文化振興計画策定委員会 会議概要

- 1 会議名 ..... 平成 29 年度 第 2 回第 2 次安曇野市文化振興計画策定委員会.....
- 2 日 時 ..... 平成 29 年 5 月 24 日 午前 10 時から午後 0 時まで.....
- 3 会 場 ..... 安曇野市役所本庁舎 3 階 会議室 305.....
- 4 出席者 ..... 笹本委員長、伊澤委員、金井委員、三好委員、片桐委員、古根委員、  
丸山委員、鈴木委員、山田委員、橋渡教育長、那須野文化課長.....
- 5 担当課出席者 ..... 三澤文化振興係長、財津博物館係長、山下文化財保護係長、丸山文化振  
興係主事、堀文化振興係員、大月安曇野文化財団事務局長.....
- 6 公開・非公開の別 ..... 公開.....
- 7 傍聴人 ..... 1 人 ..... 記者 ..... 1 人.....
- 8 会議概要作成年月日 ..... 平成 29 年 5 月 31 日.....

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (那須野文化課長)
- 2 あいさつ (橋渡教育長)
- 3 協 議  
(1) 現状と課題について  
(2) 取り組み方針について  
(3) 安曇野市の特徴的な文化について
- 4 閉 会

○協議概要

(1) 現状と取り組みについて

- 資料内容説明 (事務局)
- 委員からの意見

委員長 ・ 委員の皆様には今後の事業展開においてプラスになるようなご意見をいただきたいと思います。

委 員 ・ 施策番号 5101、能楽教室はどのように開催しているのか。また、新規の参加者が少ないが周知方法について教えてほしい。

事務局 ・ 「能楽教室」については毎年小中 1 校ずつを選定し開催。能楽師と立命館大学の学生を招き各学校で能楽教室を開催している。

- ・ 能楽鑑賞会で、子どもたちに仕舞・連吟の発表をしてもらう「子ども能楽教室」については市の広報及び新聞等に掲載、随時参加者を募集している。
- ・ 現状では新規の参加者獲得が難しい。工夫しながら周知を図りたい。

委員長 ・ 中世の能の世界を安曇野で見ることができるといことは大変貴重である。市民の関心を引くように広報をしてほしい。

委 員 ・ 施策番号 1101、拾ヶ堰は渇水期に見るとゴミがたくさんある、水がいかに大切かということを盛り込んだ方がよいと思う。

- ・ 施策番号 1201、穂高から松川村方面の国道で、閉店した店の看板が出ているなど景観が悪い箇所がある。広告宣伝物について見直してほしい。
- 委員長
- ・ 地域について知ることが安曇野の文化を知ることになる
  - ・ 市民が一人一人文化的になっていくにはどんな活動ができるか、文化のシンボルとなるより良い景観を作るためにどうするか、盛り込んでいきたい。
- 委員
- ・ 明科廃線敷もきれいな所だが、歩きにくい。元の砕石を使っているのかもしれないが、今のままでは活用しづらいと思う。
- 委員長
- ・ 文化財として保全するのか、それとも市民の利便性を向上させるために改修するのか、市全体でその方向性について考えていかなければいけない。
- 委員
- ・ 施策番号 3107、他部署との政策の調整により具体的な取組から市民文化ホールの整備を外したということだがなぜ外したのか。
  - ・ 他の部署の計画と被る内容もあるが、その調整はどうなっているのか。
- 事務局
- ・ 様々な文化芸術施設について整備をしてきた中で、一通り整備の終わったものについては、今後中身の充実にウェイトを置いていく。
  - ・ 10年の中では、整備した豊科公民館ホールを活用していきたい
  - ・ 市の総合計画に記載されておらず、財政的な裏付けのないのは計画にあげられない。整合性が取れないとの指摘を受けて外したものである。
  - ・ 他の諸計画との整合性については、庁内プロジェクト会議にて各部署の担当と協議している
- 委員
- ・ 安曇野市の文化を高めていく柱として、博物館のほかにもう一つホールという柱があっても良いのではないか。
  - ・ 10年先の話でも、今から検討を重ねていく必要があるのではないか。
  - ・ 市民アンケートについても具体的な項目を見ると、魅力的な企画がない、しっかりしたホールがないなどの不満がある。
- 事務局
- ・ 今のところ実現が難しいものについては計画に明記できない。
  - ・ 第2次文化振興計画の中では、ソフト中心にやっていかなければならない
  - ・ 市民に対しての周知が足りていないのはよく理解している。お金がない中で、いかに市民に発信していくか、工夫しながら進めている所である。
- 委員長
- ・ 市の総合計画に載っているものを具体化していくためにこの計画を立てている。音楽ホールが必要でないとは言っていない。
  - ・ 松本平の中にあって、安曇野市はどういう位置づけで動いていくのか、方向性を定めることが重要である。
  - ・ 大きなホールをつくるにしても、どの程度活用していけるのか、維持費がどのくらいかということ議論しなければならない。
- 委員
- ・ 財政面の事情から新設が難しいのはわかる。しかし、使う側から見ると、豊科公民館ホールが本当に適正な規模なのか疑問である。

- ・ 豊科高校吹奏楽部の演奏会等も豊科公民館ホールに入りきらず松本市の施設を借りて開催している。文化芸術都市の施設としてやっていけるのか。
- 事務局 ・ ホール事業の大切さは重々承知している。
- ・ 特例債の交付が終わることもあり、新設はできないことが分かっている。
- 委員 ・ 施策番号 4101、文化財の標柱・説明板の設置はどのようにしているのか。
- ・ 観光客にわかるものも大切だが、市民が地域のことを知るようなものも必要ではないか。
- 事務局 ・ 指定文化財もしくは跡地の看板は年間 10 基前後、今までに 100 基ほど設置している。また市の観光交流促進課では外国語の看板を作成している。地区の活動で、その地区にある文化財すべてに説明板をつけた事例もある。
- 委員長 ・ 市民が理解できる計画を作らなければならない。看板についても市民が理解できるものをつくってほしい。
- 委員 ・ 施策番号 3105、5105、豊科公民館ホールの音響照明を操作できる人が少なく、施設を借りた時に音響がわかる人がいなくて使えなかった。受付には施設のことが分かっている人を配置してほしい。
- ・ 市に登録のあるレセプションについては実質活動日数が、年間で 0 ～ 4 日と少なく、スキルが向上しない。
- ・ 穂高交流学習センターのレセプションや音響・照明スタッフを他の施設に有償ボランティアとして派遣してはどうか。
- 事務局 ・ 専門的な人材の配置を考えていかなければならない。取組方針として盛り込んでいきたい。
- 委員長 ・ ボランティアはあくまで本人の意思でやってもらっている。率先して活動してもらえぬ雰囲気作りが大切になってくる。
- 委員 ・ 施策番号 4102、遺跡の関係で「修理」とあるが「修復」としてほしい。
- ・ 施策番号 2101、先人の固定化が気になる。また先人というと男性が多く取りあげられている印象がある。女性の先人にも光を当ててほしい。
- ・ 施策番号 3301、5203、民間企業との連携について述べているが、国や県の助成も対象に入れた方がよいと思う。
- ・ 博物館協議会などの、市でもっている協議会への市民参画についても盛り込んではどうか。

## (2) 取り組み方針について

### ●委員からの意見

- 委員 ・ 施策番号 2101、先人についての刊行物は、大人と子供どちらが対象になるのか。子供向けの刊行物なら写真・イラストを取り入れてほしい。
- ・ 先人・偉人・自然などの分野で、子どもたちに新聞を作ってもらい、コン

クールを開いてはどうか。子どもの活字離れや、親に見てもらおうきっかけになると思う。

- 委員長
- ・ イラストや漫画を多用するのではなく、文章を読んでもらいたい。
  - ・ 子供の活字離れを防ぐことは大事である。
- 委員
- ・ 美術館などへのアクセスの問題がある。県では各市町村へ移動展示を行っている。美術展や文化展について、市内での巡回展を考えてもらえないか。
- 委員
- ・ 施策番号 1201、電線の地中化について一度には無理なので、宅地開発の際などに徐々に進めるようにしてはどうか。
  - ・ 失われたものの復活について盛り込んでどうか。例えば、農家と協力してレンゲ畑を再興するなど、失われた景観の復活を目指したい。
- 事務局
- ・ 景観について、景観計画と競合する内容についてはそちらに譲りたい。
  - ・ 安曇野らしさの根源にレンゲ畑等があるのは確かだが、文化振興計画に盛り込める内容には限界がある。
- 委員
- ・ 施策番号 5103、地域の人材を活用して、美術館や博物館に展示の背景を語る解説員を配置してはどうか。
  - ・ ただある物を見るのではなく、鑑賞の糸口となるものが欲しい。見せ方や伝え方について考えてほしい。
- 委員長
- ・ 地域の人材は使うのではなく、自発的に動いてもらうのが望ましい。
  - ・ 現状、各施設では学芸員が解説を行っているが、ボランティアとして解説をしたいという人も増えてきている。
- 委員
- ・ 碌山美術館については、市はどうかかわっているのか。
- 事務局
- ・ 碌山美術館は民間の施設であるので、その運営等について市側から指示や要求をすることはないが、連携事業やアートラインなど、一緒に活動に取り組んでいる事業はある。
  - ・ 市として荻原碌山の顕彰は必要である。
- 委員
- ・ 「ボランティア」と一口に言うと、自主的にやっていただく方と有償の方とがいる。一緒にすると問題があると思う。
  - ・ ボランティアという言い方があまりよくないと思う。うまい言い回しを考えてほしい。
- 委員長
- ・ 一緒にやっていくという意味で「サポーター」という呼び方もある。市民が理解しやすい名称で載せていきたい。
- 委員
- ・ 施策番号 3201、現状と課題の中に「中長期的な視点から企画展示等を検討して実施～」とあるが、取り組み方針の中に具体的なものを盛り込んで欲しい。
  - ・ 施策番号 5101、5102、アーティストインレジデンスについて盛り込まれているが、その効果について今、期待が高まっているので、施策番号 3301

の中にも盛り込んで欲しい。

(3) 安曇野市の特徴的な文化について

●委員からの意見

- 委員長 ・ 安曇野市の特徴的な文化を「見える化」したい。文化振興計画の冊子を市民に読まれるものとするためにも、写真を多く盛り込んでいきたい。
- ・ 委員の皆様には写真の提供をお願いしたい。

○次回会議予定について

- 事務局 ・ 次回の会議は7月6日を予定しておりますので、よろしく願いいたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。

以上